『向島の豊かな自然と生きもの』

第61回「珍しい?!虫と、普通の虫」

2024年も虫探しと虫採りと標本作りをやっています。
わざわざ採集のために出かける回数は減ったけど、登山や野鳥観察・植物観察のために野山に出かける時は虫採りの7つ道具を用意する。向島では１０年以上、毎夏3～4回ほど高見山で灯火採集を続けている。

灯りに集まる虫の顔ぶれが変わってきたと感じるので、虫先生や植物先生に問うてみた。
「高見山の植生の移り変わりでしょうか?!」「そもそも虫なんぞはそういう風に発生の数を自ら調整しているのでは?!」とか…まっ、いずれも虫に聞くのが一番！！と声をそろえる。

そんな今日この頃、今年採れた虫の中で“向島初”ってのが見つかった。
１匹は「ホシベニカミキリ」。向島洋らんセンター内の“ホルトノキ”という樹木から虫好きな小学生が見つけてくれた。
もう１匹の「ハイイロヤハズカミキリ」は、伐採したアラカシの上にとまっているのが発見された。初めて見る虫は感激で「へぇー?!」とか「これ!!初めてぇー」とかの嬉しい悲鳴が。

図鑑によればこの２種は北海道には分布せず、インドにも記録がある南方系の種らしい。
ホシベニカミキリは、ホルトノキを後食(成虫になってエサを食べる事)し、産卵するのもホルトノキ。
ハイイロヤハズカミキリは、枯れた竹材を食害すると載っています。(枯れた竹材なら食害と言わなくても良いのでは?!　竹ならなんぼでも自生しているので、この虫がもっとたくさん見つかっても良いのでは?!)

南方系のカミキリムシが向島で見つかっても不思議ではないのだけれど、ホシベニカミキリは虫好きな小学生がたまたま洋らんセンターに遊びに来てくれたから見つかったものであり、有難さは格別です。

では、この２種が“珍しい虫”かと言うと、まったくそーでは無い。
“普通種”と言えばそのとおりなのだけど…そもそも「珍しい」とか「どこにでもいて普通」だとかいうのは“人間様”の視点じゃし、希少種だからといって保護だ!保全だ!やれ環境保護だ!と騒ぐのはどーなんでしょう。もし同じように思ったり感じたりしてもらえるならば、“普通種”が普通に人間様の身近で発生して世代をつなげていることの大切さをあらためて感じてほしい。このことは今までも折にふれて伝えてきた事です。

今回の虫の標本展示に添えて、今一度、虫が虫らしく暮らせる“良き環境”とはなんだ??って事も考えてほしいと思っています。
脱炭素・ゼロカーボンを目指すことはとても意義のある行動です。その環境を目指すには“人間様”の協力が必然であります。出来ることを少しづつ積み重ね、後世に少しでも良い環境を残せるよう生きましょう。

※　珍しい虫、レアな虫、向島に普通に暮らす虫、数多く採れる虫、採集したくて何度も出かけてまぐれで採れたとしか言いようがない虫…虫好きなワイはどれも大好きで、虫達にはいつまでも命をつないでほしいと思います。

～　花と鳥と昆虫と海辺に遊ぶ　～

つるかめクラブ　江頭 正